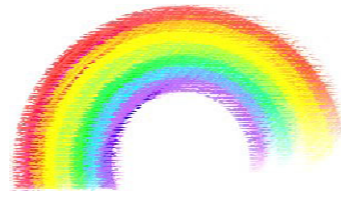


# 医療講演だより 第10号 アレルギーについて



## 今回の概要

平成22年2月18日に外来、施設利用者を対象に講演を行いました。

- |             |       |         |
|-------------|-------|---------|
| 1.アレルギーについて | 医師    | 川原 正士院長 |
| 2.薬とアレルギー   | 薬剤師   | 竹内 雄    |
| 3.食とアレルギー   | 管理栄養士 | 堤 純子    |



## アレルギーについて

今回の講演では、この時期多くの方が症状に悩まされている花粉症、そして喘息などについて行われました。

### ・アレルギーとは

外部から侵入した異物を排除し、からだを防御しようとする「免疫機能」が無害なものにまで過剰に反応し、その結果からだに悪影響を及ぼす。これがアレルギーです。

### ・アレルギーの原因

アレルギーの原因となる物質を「アレルゲン」といい、主にダニやホコリ、花粉、食品（牛乳や卵など）、金属、衣類、薬、ペットなどがあげられます。

### ・症状

花粉症：花粉と接触してから数分～数時間でくしゃみや鼻水、鼻づまり、目のかゆみ、涙等

喘息：気道が狭くなることによる喘鳴、呼吸困難です。

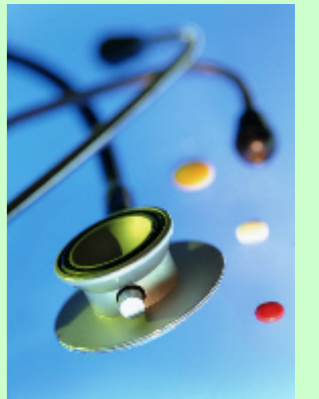
### ・治療法

花粉症：予防的治療によって症状を軽くすることができます。その目安は花粉飛散開始の約2週間前が目安です。

薬物療法：抗ヒスタミン薬、ステロイド薬、その他サイトカイン阻害剤、ロイコトリエン受容体拮抗薬、トロンボキサン受容体拮抗薬などが用いられます。

喘息：気管支の炎症を抑え、空気の流れや肺の動きを良くするための「薬物療法」と気管支の炎症を起こす「アレルゲンの除去」が中心となります。

薬物療法：吸入ステロイド薬、経口ステロイド薬、抗アレルギー薬、気管支拡張薬



## 薬とアレルギー

### 薬も時に害になることがあります

薬によってアレルギーを起こすことがあります。  
薬物アレルギー：薬の成分がアレルゲンとなりアレルギーを起こす症状の事です。

アナフィラキシー：アレルギー反応が急激にあらわれじんましんや呼吸困難、血圧の低下などショック状態をきたし、死に陥ることもあります。

服薬は、指導のもと用法用量を守ることが重要です。しかし、からだに変調をきたした場合は速やかに医師に相談しましょう。

## 食とアレルギー

### 食品衛生法

加工食品に含まれるアレルギー表示

\*平成14年4月より表示

\*患者数が多いか重篤度の高い7品目

卵・乳・小麦・えび・かに・そば・落花生

\*小児に多い乳製品、小麦アレルギーは、年齢とともに耐性がついていき、やがてほとんどの人は症状が無くなります。

アナフィラキシーショックを起こしやすい食品

\*そば・ピーナッツ

食物アレルギーの食事療法の原則は、正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去です。

## 今後の予定

### 5月12日は看護の日

高田先生による「脳卒中とその予防について」の講演他、血圧測定、骨密度測定などの計測、腰痛体操、介護保険など社会保障に関する相談コーナーなどを計画しております。お楽しみに !!



## 皆様の声



- ・自分自身がアレルギー性鼻炎なので勉強になりました。注意すべき点を学びました。
- ・原因から対応の仕方までわかりやすく理解できました。
- ・資料もしっかりしていて、家族にも教えやすかった。
- ・自分自身がアレルギー体質の為、新しい話が聞かれるかと思いました。
- ・難しかった。